

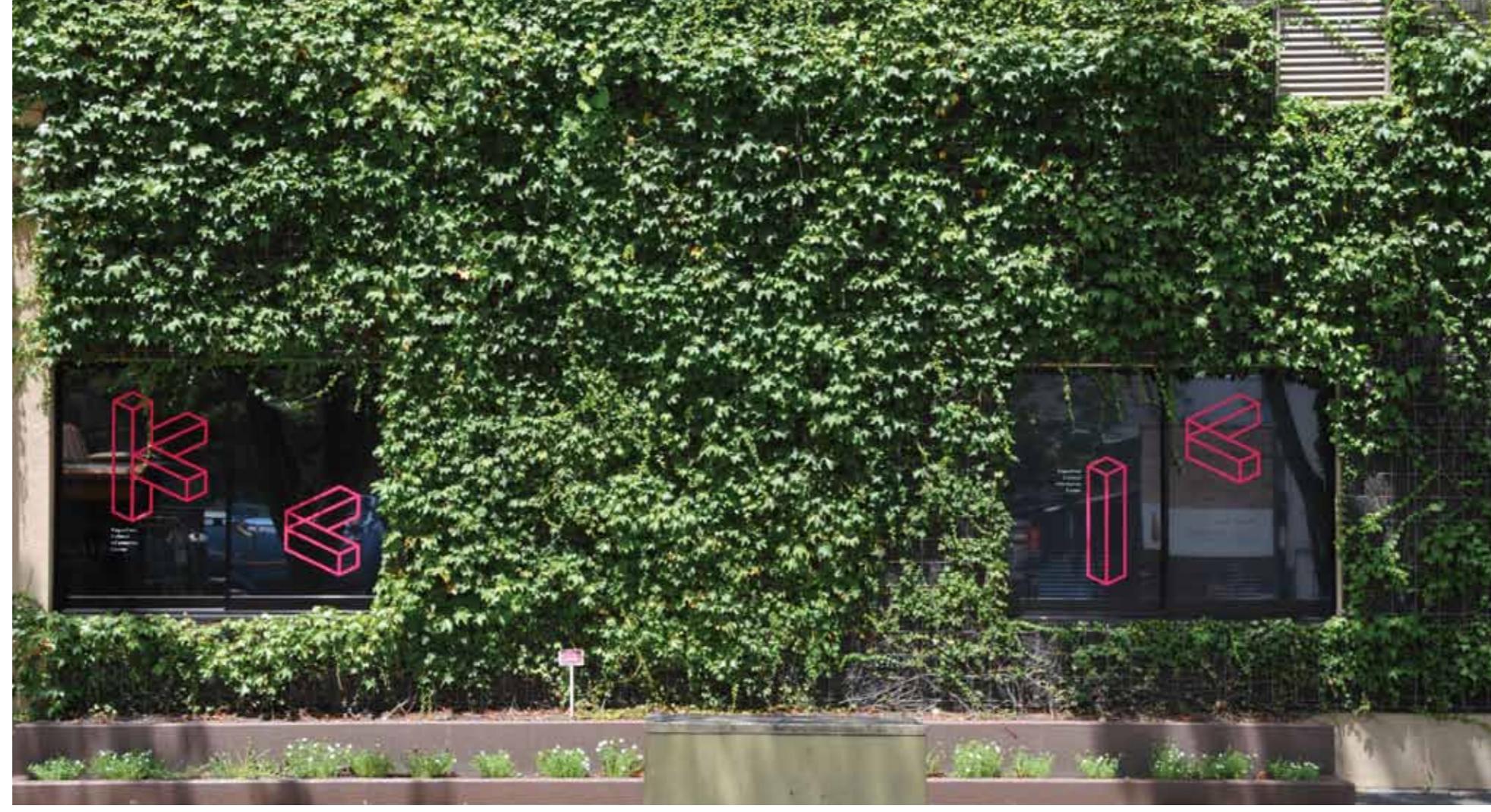
かごしま文化情報センター(KCIC)オープン!

2013年8月10日(土)、文化を軸に情報を編集、発信する拠点「かごしま文化情報センター(KCIC)」が誕生します。現代の生活にあふれる情報から多様な文化を見つめることで、新しい未来を考えていく場です。文化を通じて人々が集い、関わり合いながら一緒に育っていく中で、新しい何かを生み出していくます。



<http://www.kcic.jp>

文化から新しい未来を考える



考
え
る。

文化情報の編集・発信から
創造の場を生み出します。

新しい文化情報の発信の場、「かごしま文化情報センター(KCIC)」。
美術、音楽、伝統芸能の3つのジャンルを中心に、国内外の多様な
文化情報を集め、これまでにない視点で情報を編集し、発信する文化
情報の拠点です。新しい文化活動にも積極的に取り組み、さまざまな
人々と創造・表現活動を通じて関わり合いながら、長く息づいて
いく自由で多様な文化の形を提案し、新しい未来を考えていきます。

つくる。

みんなで関わり合いながら
つくりあげます。

「かごしま文化情報センター(KCIC)」は、多くの人々が関わることで完成していく、みんなで「つくる場」です。文化情報をを集め、新しい切り口で編集し、広く発信していくことはもちろん、定期的に楽しいワークショップを行い、これから時代の地域の姿をみんなで一つひとつ創造していきます。また、鹿児島でさまざまなイベントを開催したり、文化情報の発信等を行ったりする人々をサポート。交流の場としてもご利用いただけます。

ひらく。

どなたでも利用できる
オープンな空間です。

「かごしま文化情報センター(KCIC)」は、どなたでもご利用いただける開かれた場です。センター内に設置した本棚には、美術を中心とした文化関連の書籍を国内外から厳選して集め、陳列しております。自由に手にとって、センター内でゆっくりとご覧いただくことができます。また、常設の小さなギャラリー空間もありますので、気軽にアートに触ることができます。

- KCIC WORKSHOP

※ワークショップ: 参加・体験して何かを学び合ったり、創り出したりする、学びと創造の機会を指します。

写真地図 ワークショップ

KCIC周辺の面白いエリアを、デジタルカメラを持って歩き、街中にあるアートな素材をそれぞれカメラで収集。撮影した写真を使って、アートな切り口の新しい地図をつくります。



アーティスト・平川渚が、
鹿児島に住む人々と一緒に
ワークショップを行います。



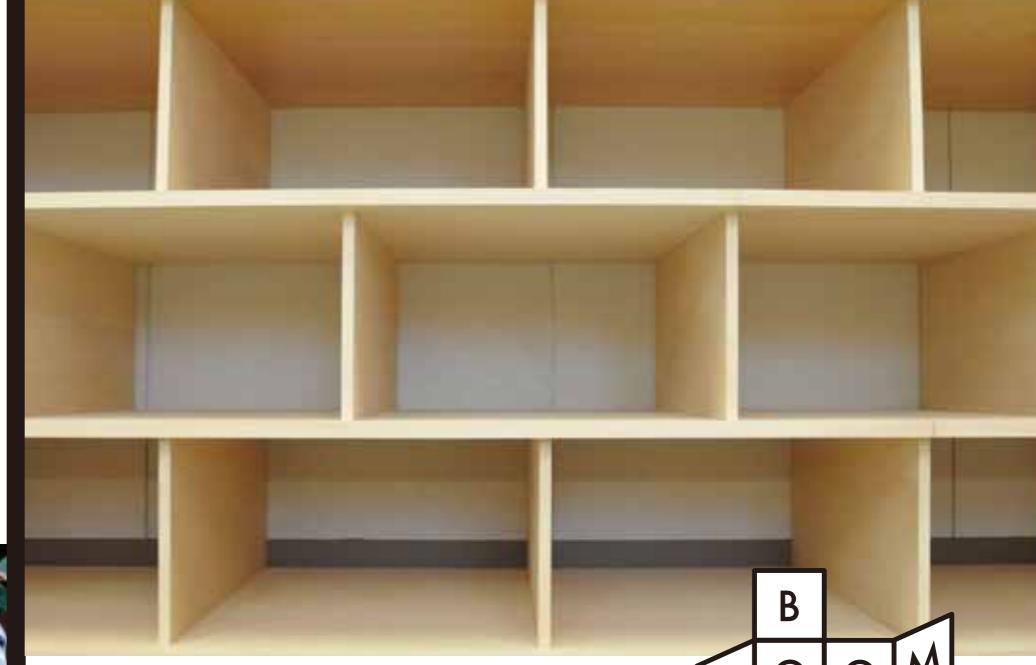
地域の 古着 ワーク ショップ

個人の記憶や思い出を含んだ古着。それぞれ古着を一枚ずつ持ち寄って、それを素材とした作品づくりを行います。たくさんの人と記憶が織り込まれた作品を共同制作します。

開催日・時間は、ホームページ(<http://www.kcic.jp>)にて。

Profile | 平川 渚 Nagisa Hirakawa

糸や古着を一定期間かけて空間に編みこんでいく作品や、身近な素材を模様のように切り出した写真作品などを制作。近年はさまざまな年代の人と行うワークショップを学校・美術館・映画館・駅構内などで行っている。2013年鹿児島に移住。



B
R
O
O
M
galler

さまざまな作品が
アパートのように入居します。

「かごしま文化情報センター(KCIC)」内には、約30個のボックス状のギャラリースペースがあります。ボックスごとに、さまざまなジャンルの個性あふれるアーティストの作品を展示。センターオープン中はいつでも自由にご覧いただけます。鹿児島市役所や天文館の通り路に、刺激的なアートに触れてみませんか。今後、作品が続々と増えていますのでお楽しみに。

アート・地域・人をテーマに
KCICがおすすめする書籍(紙/電子)を
1冊ずつご紹介します。

紙



電



KCIC
book
market

ローカルから発信する
文化を通した街づくりを
ご紹介します。

子どもたちが駆け回る、世界の先端を行くメディアアートセンター

ワイカム

山口情報芸術センター(YCAM)

Yamaguchi Center for Arts and Media

2013年の今年、10周年祭のアーティスティックディレクターとして
アーティストの坂本龍一を迎えたYCAM。

メディアと身体を軸に、これまでにない取り組みを
大胆に盛り込んだ企画を地方都市から全世界へ発信している、
最先端の芸術拠点をご紹介します。



Local
& Art

YCAMは、さまざまな芸術の中でも、コンピュータや通信技術を使ったメディアテクノロジーを特徴とする新しい芸術文化の創造・発信をするほか、「メディア(=媒体)」という言葉を広くとらえ、身体を媒体として、ダンスや演劇など多くの舞台芸術も意欲的に企画。さらに次代を担う子どもたちへの教育普及企画に加え、週末には映画上映など多角的なプログラムも開催。多くの市民、そして県外からの来客を集めています。

施設内には、図書館・劇場・展示スペース・ミニシアター、ワークショップルームを保有。さらに、専門知識を持つ企画者(アーティストでもあるスタッフも多数)が常駐すると共に、コンピュータ技術の専門家と舞台技術の専門職約10人で構成されたチーム「InterLab(インターラボ)」を有し、分野を超えた活発な創造活動で注目されています。

まち、ひと、芸術が一体になる。

オープン当初より、YCAMでは学校を終えた子どもたちが展覧会を訪れては作品と戯れたり、家で作った作品をスタッフに見せ、議論したりする姿が見られます。また、劇場では、山口発のオリジナル作品はもちろん、地方ではなかなか見ることのできない世界の舞台作品の大作を上演。地域住民が気軽に劇場に通い、芸術に触れ、人々と交流する機会を生み

だし、いわゆるヨーロッパに見られる「劇場文化」を地域に少しすす根付かせています。

また、センターを飛び出し、山口のまちを舞台に行われる企画も。5年前の5周年には、イギリスのアーティストグループ「United Visual Artist」や国内の気鋭アーティスト「エキソニモ」「シンチカ」が地域の温泉街のホタルや足湯、美術館の庭に作品を設置してまち歩きを促しました。また、日本、ドイツで活躍する劇団「PortB」が山口市民との共同作業で商店街の歴史を振り下げた台本をつくり、まちの人が出演となるツアーバー「オーパーマックス」を開催。アートとまちが一体となった企画が意欲的に行われています。

YCAMが実現している、地域の人々と共に世界の動向を見ながら、現代で何を知るべきか(見るべきか)を企画していくプログラムは、山口市民にとっては決して遠い存在のものではなく、むしろ住む地域(=ローカル)と世界を一気につなげていくもの。今年の7月から12月まで10周年記念祭として、センター・や街のでたくさんの企画が行われます。この機会に、自然に囲まれたおおらかなまち・山口市と世界の先端を行くメディアアートセンターを訪れてみてはいかがでしょうか。(岡元朝子)

● <http://ycam.jp/> 753-0075 山口県山口市中園町 7-7

「鹿児島風土記III 田の神図鑑」
八写友会運営委員会編
発行 株式会社 南方新社 2007年

「REVIVE JAPAN WITH MUSIC」
飯田仁一郎著
発行 OTOTOY 2013年

2011年3月11日以降2年にわたり「OTOTOY」のウェブサイト上に掲載された、大友良英、箭内道子、後藤正文など音楽やカルチャーに関わる人々がそれぞれの立場で復興にどう関わろうとしているのかのインタビューをまとめた本。震災直後、芸術に何ができるのかを問われる中で、それぞれ一人の音楽家として、人間として、何を考え、どう動いたか、放熱汚染を抱えた土地に対して、長期的にどう関わろうとしているのか、立場や分野を超え、それぞれのやり方で、標榜しながらもアクションを起した人々のリアルな言葉に、芸術にできることはたくさんあると思える一冊。

アートを中心に関わる計画

四方をなだらかな山々に囲まれた、人口20万人弱のまち、山口市。ここに、まちづくりの中心的役割を担う施設として2003年にオープンした「山口情報芸術センター(YCAM)」。NHKケーブルテレビジョンという2つのテレビ局を両隣に、現代の情報を発信する都市計画の真ん中に「芸術」を置く、といい山口市の長期的戦略を見据えた、未来に対する強いコンセプトを持つ場所として誕生しました。

